

認知症の人にやさしい 地域づくりを目指して



高齢者福祉課地域包括支援センター係 ☎0824-73-1165

認知症は、脳の病気や障害などにより認知機能が低下し、日常生活に支障がある状態をいいます。誰でもなる可能性のある病気で、市内でも、65歳以上の約6人に1人が認知症と判定されています。いつ自分や家族、親しい人が認知症になるかわかりません。

市は、認知症になっても住み慣れた場所で自分らしく暮らし続けることができる地域づくりを目指し、さまざまな取り組みを行っています。今回は、その取り組みの一部を紹介します。

● 認知症キャラバン・メイト養成研修の開催

10月18日、県北では14年ぶりに三次市と合同で認知症キャラバン・メイト養成研修を開催し、計26人（うち庄原市12人）が参加しました。

認知症キャラバン・メイトとは、認知症サポーター（※）養成講座の講師を務め、一丸となって認知症の正しい理解を進める「仲間」のことです。

参加者は、認知症の症状や介護している人の気持ちなどについて講義を受けました。その後、グループワークを行い、認知症についてより正しく理解してもらえる、認知症サポーター養成講座の内容を検討しました。

参加した居宅介護支援事業所ユウシャインの沼田恵さんは「認知症に対する理解が広がることで、認知症になっても安心して暮らせる社会につながると再確認できた」と話しました。

※認知症サポーター

認知症サポーターは認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人やその家族を温かく見守る「応援者」です。認知症サポーターになりたい人、地域で認知症について理解を深めたい人は「認知症サポーター養成講座」を受講してください。

「認知症サポーター養成講座」は、出前トークのメニューとして用意しています。出前トークの申し込みは、行政管理課広報統計係（☎0824-73-1159）にご連絡ください。



キャラバン・メイトの役割について研修



グループワークで認知症への理解を深める

● 認知症に関する図書の巡回展示

9月から、認知症に関する図書を市内22校の小中学校で巡回展示しています。

これは、若い世代が認知症に対して興味を持ち、理解を深めることを目的に実施しているもので、各学校にブースを設置し、認知症を取り上げた絵本や漫画などを展示しています。

展示は、2カ月ごとに各学校を巡回しており、児童生徒は休憩時間などを利用して、図書を手に取り読んでくれています。また、授業で読み聞かせを行ったり、学習の副教材として活用したりしている学校もあります。

子どもの頃から認知症について正しい知識を持ち、認知症の人が安心して生活できる地域づくりを子どもたちと一緒に考えていけるよう、家庭でも認知症について話してみてもいいのではないでしょうか。



東小学校での展示